

「死んでしまおう」伝えたのに

摂津・3歳死亡 知人が市に

大阪府摂津市のマンションで新村椋利斗(3)が死亡し、母親の交際相手の無職松原拓海容疑者(29)が殺人容疑で逮捕された事件で、松原容疑者が虐待をしていた疑いがあるとの情報を市が複数回受けていたことがわかった。ただ、市は、松原容疑者が母子と同居していることを把握していなかったという。

市「暴行の形跡見られず」

摂津市や府吹田子ども家庭センター(児童相談所、吹田市)によると、椋利斗(3)と母親は2018年10月、大阪府内の別の自治体から摂津市に転入した。前に住んでいた自治体からは、母子の生活状況などを踏まえ、ネグレクト(育児放棄)などの恐れがあり、見守りが必要な家庭と



新村椋利斗ちゃんが死亡するまでの経緯
大阪府警や摂津市などへの取材から。写真は母親の知人提供

2018年10月	椋利斗ちゃんと母親が大阪府摂津市へ転入。市と府吹田子ども家庭センターが協議し、市が母子を見守ることを確認
20年10月	松原拓海容疑者と椋利斗ちゃんの母親が交際を始める
21年5月	母子の住むマンションに松原容疑者が同居
5月6日	市に相談 母親が摂津市役所を訪れ、「彼氏が子どもに手を上げて、あざができた」と相談する
11日	市の対応 保育所が椋利斗ちゃんをあざを確認し、市に報告
12日	市の対応 市職員が松原容疑者と面会し、暴力を振るわないよう指導。松原容疑者は「わかりました」と応じる
6月2日	市に通報 母親の知人が市役所を訪れ、「このままでは子どもが死ぬ」と伝える
3日	市の対応 市職員が母子と面会して安全と判断
8月17日	市と面会 母子が市役所を訪れる 母親から虐待の話はなかったという
31日	松原容疑者が「(椋利斗ちゃんが)浴室内で意識がない」と119番通報。搬送先の病院で死亡が確認される

信頼構築 必要だった

鈴木秀洋・日本大危機管理学部准教授(行政法)の話 摂津市や児童相談所は容疑者の存在を認識した時点で、母親宅への滞在時間や頻度を聞き取ったり、洗濯物の有無を確かめたりして、同居の実態を把握することができたはずだ。容疑者に対する暴力行為への注意喚起の方法もずさんではなかったか。安易に注意すれば、新たな暴行の事実が隠される恐れがある。注意した後のフォローこそ重要で、信頼関係を築く必要があった。市や児相は男児のSOSや地域の声を放置したと言われても仕方がない。

湯をかけ数時間放置か

容疑者、夕方の通報まで

高温の湯をかけて椋利斗ちゃんを殺害したとされる事件で、松原容疑者が、やけどを負った椋利斗ちゃんを数時間放置していた可能性があることが捜査関係者への取材でわかった。大阪府警は24日、松原容疑者を大阪地検に送検した。松原容疑者は府警の調べに對し、「湯を故意に浴びせていない」と容疑を否認しているという。

府警によると、椋利斗ちゃんは摂津市のマンションで母親と暮らし、母親と交際を始めた松原容疑者とも同居。府警や摂津市消防本部によると、松原容疑者は8月31日午後4時50分ごろ、浴室内で男児の意識がないと119番通報した。救急隊員が駆けつけたところ、椋利斗ちゃんは裸で倒れており、心肺停止状態だった。頭から上半身にか

けて皮膚がただれており、搬送先の病院で死亡が確認された。死因は熱傷性ショックだった。母親は午後1時半ごろから外出していたという。捜査関係者によると、司法解剖などから、椋利斗ちゃんは5分以上高温の湯をかけ続けられ、重いやけどを負ったとみられる。救急搬送時にはすでに死亡しており、死後硬直が始まって

「出入りしている交際相手」と認識したという。6月には母親の知人らが「同居の交際相手がいる」「椋利斗ちゃんが虐待で死んでしまおう」と市役所を訪れて訴えた。だが、その後

の自宅訪問や面会の結果、「同居の実態は確認できず、暴行の形跡も見受けられなかった」と判断した。松原容疑者と面会することはなかったという。担当者が母子と最後に面会したのは事件の2週間前だったが、異変は感じなかったという。一連の経緯は児相とも共有していた。市幹部は取材に「その時、適切な対応をしていた」と説明。児相幹部は「対応について市から相談を受けたことはなかったが、結果的には協議がうまくできていなかった」と話した。

トンネル入れば デジタルの森

神戸市北区の山あいにある市立森

2021.9.25 朝日新聞